

横浜国立大学大学院環境情報研究院

事業名	日本の里山・里海に学ぶ人と自然の輪づくり交流			
実施期間	平成24年6月15日～平成24年9月26日			
場 所	陸前高田市、神奈川県葉山町、国連大学本部(東京都渋谷区)			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	40 名	93 名	80 名	213 名

<実施内容>

7月31日、岩手県陸前高田市立第一中学校にて、「いのちを守るがれきを活用した緑の防潮堤構想 陸前高田 セミナー」を開催した。

8月1日は陸前高田市の仮設住宅地で、交流・心的ストレス緩和の目的で運営されている菜園の除草ボランティアを実施した。

その夜、仮設住宅住民や子供たちとの交流会を実施した。

9月20日、陸前高田市広田町にてタブノキおよびヤブツバキの実生苗を圃場に移植し、育苗の準備を行った。

9月23日、神奈川県葉山町において里山・里海保全をはじめとする環境保全活動を行うNPOや、お囃子の伝統芸能を伝承する子供会グループと交流を行った。

9月26日、国連大学本部において、「リスク管理・持続可能性推進—持続可能な社会の構築に向けて」と題するシンポジウムを開催し、政策・事例研究を始め、陸前高田視察の成果報告を行った。



写真脚注

写真上左 セミナーで講演をする宮脇昭横浜国立大学名誉教授

写真上右 セミナーでのパネル討論会

写真2段左 仮設住宅地菜園で除草ボランティア作業をする留学生

写真2段右 仮設住宅集会場での留学生や子供たちを交えた仮設住宅住民との交流会

写真3段左 陸前高田広田町での育苗活動

写真3段右 神奈川県葉山町環境NPO・地域住民との交流会

写真下左 国連大学シンポジウム

写真下右 国連大学シンポジウムでの海外留学生の発表の様子

<参加者からのコメント>

カスディカ バンダラさん(マラウイ)/Kasundika Bandara

東日本大震災で被災した陸前高田市にて、復興、防災そして自然再生を進めようとする地域の人たちと交流ができ、現地の人たちの心情や文化に触れられることができて大変貴重な経験ができた。苦境にもめげず、笑顔をふるまう現地の子供たちの姿が印象に残った。学友や祖国の人たちに見聞きした様子を伝えたい。

ボ・ドゥイ・フングさん(ベトナム)/Vo Duy Hung

陸前高田、葉山、国連大学と持続可能な自然資源の利用を進める上で、里山・里海の保全という日本の伝統的な取組を見直し、再活性化を図ろうとする動きは、国際的にも意義が高く、そうした活動がさらに広がることを期待される。そうした活動を行う日本人たちと直に触れ合い、共に活動をすることができたことは大変良い経験になった。また参加したい。